



門真市子どもの未来応援ネットワーク事業 情報誌 vol.10

令和3年2月発行

子どもの見守りをお願いします！

【事例件数】

ケース数
212

応援団員	学校	その他
128	68	16

【校別応援団登録者数】(令和2年11月20日現在)

中学校区	登録者数
第二中	147
第三中	218
第四中	201
第五中	200
第七中	139
はずはな中	167
企業等	157
その他・市職員	101
合計	1330



応援団員の皆さまの少しの気づきが、その子どもの支援につながります。

「自信がない」「間違っていたらどうしよう」「こんなことで連絡してもいいのかな」などの心配は一切ありません。

子どもの未来応援チーム ☎06-6902-6098

企業等から寄付をいただきました。

門真市の子どもの貧困対策事業の趣旨にご賛同いただき企業から生活支援物資の寄附をいただき子どもの未来応援チームから支援を必要とする家庭へ届けました。

門真市と事業連携協定を締結する「旭食品株式会社」様からは、毎月生活支援物資を寄附いただいています。



「株式会社アカカベ」様からは、レトルト食品を中心に寄附いただきました。

「マルハン大東店」様からは、お菓子の詰め合わせを寄附いただきました。



コロナ禍での子どもの見守りについて

新型コロナウイルス感染予防の観点から地域行事の中止や、子どもの居場所の活動停止などで、子どもと大人が接する機会が減っています。

一方で、コロナ禍で経済的に苦しくなった家庭や、人と接することが減り相談できる機会が減少して社会から孤立してしまう子ども達が増えているのではと危惧されます。

このような状態であるからこそ、子ども達の声に出せないシグナルをキャッチして、「子どもの未来応援チーム」へ情報提供いただくことで早期に対応し貧困の連鎖へ陥らないようにすることができます。

皆様の生活の中で「**ながら見守り**」を実践いただき、子どものシグナルの発見にご協力をお願いいたします。

実際に応援団員からの情報提供例をお伝えします。

- 朝、出勤途中にコンビニで朝ごはんを食べていると、集団登校から外れてうつむきながら歩いている小学生低学年男児を見た。地域の方が声かけをするも反応がなく元気がないため、子どもの未来応援チームへ情報提供を行った。
- 朝、自転車で出勤途中に小学生低学年男児が交差点に一人で座り込んでいた。信号が変わっても動く気配がないため、気になり子どもの未来応援チームへ情報提供を行った。
- 子どもの居場所（宿題カフェ）で、フードで顔を隠して勉強をする小学生高学年男児がいた。話しかけても反応が薄く、また対応が粗暴であったため、子どもの未来応援チームへ情報提供を行った。

これらの情報を元に、地域の学校や行政が持つ情報などを参考に、家庭環境等を洗い出し「子どもの未来応援チーム」が子ども及び保護者に必要な支援を行っています。

地域での見守りについてのご相談やご提案などありましたら、「子どもの未来応援チーム」までお寄せください。



公民連携子どもの居場所「子どもLOBBY」

イズミヤ門真店3階に令和3年4月に開設予定

門真市が運営する常設の子どもの居場所として設置します。

広さ：約60㎡ 定員：20名程度 内装は「IKEA鶴浜」のデザインにより子どもや保護者がいつでも「落ち着く」「行ってみたい」という雰囲気演出。気軽に集まり、相談できる施設として活用します。

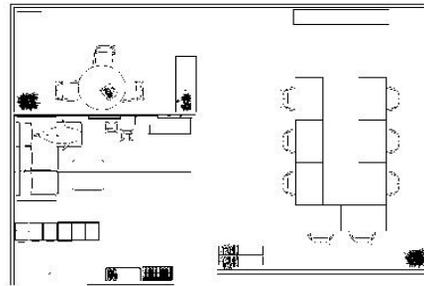
施設の設置費用は寄附金及びふるさと納税を活用するほか、場所は株式会社エイチ・ツー・オー商業開発から無償で提供していただき、家具等は「IKEA鶴浜」から寄附をいただきます。詳細につきましては随時、市広報等でお知らせいたします。

応援団員の集会などにも利用できるようにする予定です。

子どもLOBBY
イメージ図



相談スペース



平面図

「子どもLOBBY」ではどのようなことをするのか？

①保護者や子育て関係者を対象とした子どもの非認知能力向上プログラムの実施

保護者や子育て関係者に「非認知能力*」を向上させる子どもへの接し方の研修を行い、受講者が家庭や保育現場など子どもと接する機会にそのスキルを活用することで子どもの非認知能力向上を目指します。

* 数値化できるIQ（学力等）ではなく、創造性・協調性・粘り強さなど数値化できない能力のこと。

②子どもの居場所及び保護者の相談支援の場としての活用

家庭・学校とは違う第3の居場所として活用し、子ども同士はもちろん、大人との世代間交流を行うことにより社会性を身に着けることを目指すと同時に、いつでも大人に相談できる場所とすることで、子どものシグナルにいち早く対応できるようにします。また、保護者の相談も同時に受け付けます。

③キャリア教育イベントの実施

連携企業が子ども達へ様々な職業体験を提供することで、子どもが視野を広げ、その中で将来の夢を見つけ、自ら夢に向けて努力し、生きる力をつけることをめざします。また、このことで貧困の連鎖を断ち切ることができればとも考えています。（隣接する「海洋堂ホビーランド」とも連携します。）

「子どもLOBBY」イメージキャラクター誕生

市内小学生より「子どもLOBBY」のイメージキャラクターデザインを募集し、その中から選ばれた3作品から漫画「キン肉マン」の作者である「ゆでたまご」先生がリライトし、イメージキャラクターを誕生させて4月の「子どもLOBBY」のオープンに合わせて発表します。お楽しみに！

また、全ての応募作品は、オープン前後にイズミヤ門真店1階へ掲示する予定としています。

* 市内小学生から**272作品**もの応募がありました。



子どもの未来応援推進員の取り組み紹介

第四中学校区 担当推進員 若松

本事業が始まって4か月後の平成30年2月に応援団員が顔を合わせるための場所として「第四中学校区子どもの未来応援団連絡会」が設立されました。

定期的に50名近い応援団員が第四中学校のランチルームに集まり活発な意見交換を行うとともに、子どもを見守る時の「見まもりシート」の作成や、子どもの見守り方研修会などを行ってきました。

その結果、応援団員のみならずたくさんの情報提供をいただき、登校していなかった生徒に対して推進員が学校と連携して家庭訪問等の支援を行い、生活環境が改善したことによって登校ができるようになるケースも出ています。

現在はコロナ禍で様々な活動が制限されていますが、これからも「My children ~ Our children」を合言葉に、一人ひとりの子どもを大切にしていきたいと思っています。

第二中学校区 担当推進員 原田

応援団員の皆様には、通学路や交差点で子どもたちへの声掛けや、買い物や通勤途中における見守りを行っていただいております。大変感謝しています。

また、子どもの居場所である「宿題カフェ」で活動する応援団員からも子どもに関する情報をいただき、これらの情報を基に学校と連携を行い対応をしています。

応援団員の皆様の活動に推進員の私は、元気をもらっています。

お会いすることがなかなかできない日々ですが子どもたちの「安心」「安全」を見守ってくださっている応援団員さんの存在に地域のチカラを感じています。